令和７年度第１回丹波市文化財保護審議会・歴史民俗資料館運営員会会議録

日　　時：令和７年７月 11 日（金）午後２時～午後３時 20 分

場　　所：丹波市教育委員会　３階　委員会室

出席委員：大木会長、山内副会長、井上委員、篠崎委員、村上委員、植野委員、久下委員、
　　平岩委員

欠席委員：橋寺委員、門脇委員

事務局　：吉住課長、堂本係長、西岡学芸員、玉出学芸員、曽根学芸員

１．開会　　吉住課長

２．あいさつ　会長

３．自己紹介　事務局、委員

４.報告事項

（１）令和７年度 文化財関係事業について【資料１】
　　事務局より説明

質疑

会長	今年度は黒井城跡の石垣の計測や調査業務がありますが、それとは別で昨年度の興禅寺の石橋が崩落した件については、以後どのような経過を辿っていますか。
事務局	昨年度、景観形成の補助を使って修復する方向で動いているとご報告しましたが、現在、県の方で審議中です。他市町にも景観形成の候補があるので、順番待ちという状況になっています。そのため、具体的にどう直すか、いつ直すかは決まっていません。
委員	今の補足で、国の登録有形文化財への指定・申請をする予定です。
会長	橋についてということでしょうか。

委員	橋と崩落した箇所も。それ以外のところも、石垣がはらんだところがあったりしますので、それを含めてどうするか。
会長	なるほど、現状はそういう状況なんですね。ありがとうございます。

（２）市指定史跡「旧広小路土塀跡保存修理工事」について【資料２】
事務局より説明

質疑

副会長	今、土塀に関する看板などは設置していますか。
事務局	現在は設置していませんが、修復後には学習教材として、また観光やPRも兼ねて看板は設置する予定です。
副会長	それは良かったです。現状だと、隣接店舗の壁のようにみえますので、文化財として修復することを示せれば良いと思います。
委員	今の漆喰はいつ頃のものでしょうか。
事務局	記録には史跡に指定された当時、旧柏原町時代(丹波市発足前)の時に、漆喰で修理をしたと残っています。
委員	30～40年ほど前ということでしょうか。
事務局	そうですね、30年近く前になります。
委員	その前は、普通の土塀だったのでしょうか。
事務局	それ以前も何度か修復はされていますが、築造当時は漆喰ではない土塀でした。今回はその作られた当時の土塀に復元します。塗り上げて乾燥を十分に行ってからまた何層かにわけて塗っていく流れになります。乾燥しやすい時期に修復工事を行う必要がありますので、工期は２年と見ています。

委員	分かりました。土塀に戻した後、今の景観と周囲の景観と違和感があり過ぎると少し困るなと。元の状態に復元することは反対ではないですが。
委員	道側の漆喰は全て剥がすということですか。
事務局	はい。中心の壁のみを残して解体していきます。外からの調査は実施していますが、解体した後の調査も実施していただいて復元をしていくという流れになります。
委員	中の構造は分かっているのですか。
事務局	具体的に中の構造は分かっていません。過去に土塀を復元しようという計画があり、その過程で調査を実施していますので、その時の資料や調査結果をもとに復元していこうと思っています。実際には想定とは異なる箇所が腐食しているなどのことがあるかと思いますので、そのあたりは見識のある業者の方に調査・監理していただいて、工事業者の方に伝達していただき、工事を適正に進めていくように考えております。
会長	景観形成上、非常に大切な土塀ですので、よろしくお願いします。

（3）令和７年度埋蔵文化財分布調査〈親王塚北野古墳群〉について【資料３】
事務局より説明

質疑

副会長	親王塚古墳はどれにあたるのでしょうか。
事務局	地図でいいますと、左側の１番になります。
副会長	消滅しているのですか。

事務局	そうですね、一応古墳本体は消滅していますので消滅扱いにしています。
副会長	前方後円墳かどうかの調査は進んでいますか。
事務局	そちらについては大学との調整が中々つかないのですが、地元の方からも「掘らなかったら」と言ってもらってますので、レーザー探査のできる大学に話を持ち掛けたいと思っています。
委員	古墳はいつ頃のものになりますか。年代に幅はありますか。遺物などは落ちていないですか。
事務局	そうですね。近くにある古墳は似通ってはいるんですけれど、墳丘のない古墳もあるので、時期差はあります。遺物も落ちてはいます。それもある程度の時期差はあります。大体５～６世紀あたりになります。おおよそですが、地図に記載している 13 番あたりが一番古い古墳かと思われます。 また丘陵の上に上がるほど新しくなっているのではないかと思います。
委員	群集墳のようなものということでしょうか。
事務局	はい。物も新しくなってきて、尚且つ墳丘も段々と低くなってきて、木棺か石棺だけを入れたような古墳に変わっています。また、調査が及んでいない西側には一番古い形態の、石室の石を真っすぐではなく、斜めにかけた合掌造りのような石室をもつ古墳が何基かあるようなので、やはり古墳群全体でみるとやはりある程度の時期差はあると思います。
委員	ありがとうございます。 また色々詳しい情報もお願いいたします。
会長	地元の自治振興会の方と社会教育・文化財課の皆様の献身的な協力で、地元おこしに繋がればというようなかたちで力を入れておられるようなので、お世話になりますけれども、よろしくお願いします。

5.協議事項

（1）市指定文化財について【資料4】

・各専門部会での現地調査について

事務局より説明（今後の予定については、提案のとおり進めることで了承）

質疑

委員	鴟尾も非常に大事で、当然市の指定になるべきだと思うが、鴟尾が出土した窯跡からは瓦当の瓦は出ていなかったでしょうか。
事務局	少しは出ていますが、どれかは分からない状況です。
委員	軒丸瓦や平瓦なども、鴟尾と一括して指定できれば、後々良いのではないかと思いました。鴟尾がメインだけれども、それに伴ってこういった軒の瓦もあるんだよと。
事務局	そうですね。間に合えばぜひ、指定の時にこの年代を決める決め手になった資料にはなるので、一緒にできればと思います。
副会長	是非一緒に指定にしていただきたいです。三点ある鴟尾のうち、二点は展示ケースに入って綺麗ですが、残りの一点はケースに入ってない状態での展示になっています。オープンスペースみたいな感じで、それはそれで小さい資料館ならではの良さではあるんですけど。布目瓦なども、少し触れたりできるくらいなので。一緒に指定にしていただければ開館ボランティアの方々も喜ばれるかなと思います。
会長	軒丸瓦などのその他一緒に指定にできれば良い瓦は、資料館に行けば見ることはできますか。
事務局	状態の良いものは展示していますので見ることができますが、同じ窯跡から出てきたものかどうかの断定はできていません。

6.その他　遺物や遺跡の３Ｄ公開、令和７年度夏季企画展、合同企画展、令和８年度ミニ企画展について事務局から説明

7.閉会　副会長